

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

C-25 臨床検査のガイドライン 2005/2006

症候編・疾患編・検査編

日本臨床検査医学会包括医療検討委員会および厚生労働省 編
宇宙堂八木書店、平成 17 年 12 月 25 日 第 1 版

■C25-1 甘草含有薬 (小柴胡湯)

疾患:

薬剤性浮腫 (副作用)

副作用に関する記載ないしその要約:

『甘草含有薬 (小柴胡湯、強カミノファーゲン C) やエストロゲン作用薬はアルドステロン様作用があり、Na を貯留させる。ヒドララジンなどの血管拡張薬や Ca 拮抗薬は血管透過性を亢進させ浮腫を来たす。そのほか NSAID など多くの薬物が浮腫の原因となるので、疑わしい薬物を服用しているときは中止して浮腫の消退を確認する。』